

ご縁の「縁」+楽しむという意味の英語「ENJOY」=「縁じよい」つながりながら楽しむという取り組みです。

新たな交流 の拠点!

「福祉交流館 すてっぷ宮代」

令和3年5月6日、西原自然の森にある「旧ふれあいセンター」を改修し「福祉交流館 すてっぷ宮代」としてリニューアルオープンしました。宮代町の福祉・交流の拠点として、「福祉作業所ひまわりの家・すだちの家」と宮代町社会福祉協議会が一体となって活動し、より一層の地域福祉の推進や共に支え合いながら生きていく共生社会の実現を目指しています。

町内の多様な機関と連携し、世代を問わず町民の皆さんが「ふれあい」や「つながり」を感じ取れるような場所になるよう試行錯誤を重ねていきます。「しばらく足が遠のいていたなあ」「散歩がてら行ってみようかなあ」という方も、ぜひとも西原自然の森にお越しください。そこでは、皆さんの知的好奇心を満たしてくれる沢山の資源が待っています。

埼玉ポーズの仕掛け人、鷲谷政明さんが「福祉交流館 すてっぷ宮代」に取材に来てくれました!



去る令和元年7月30日、進修館大ホールにて「やわらかい頭と心のつくり方」と題した、鷲谷政明さんの講演をご記憶にある方もいらっしゃると思います。「交流」の大切さやポイントをお伝えしたく企画したイベントでした。現在のコロナ禍においては、感染拡大防止の観点から交流そのものが自粛を求められています。

しかしながら、このような状況だからこそ交流の大切さを改めて伝えたいと思いました。そこで、令和3年7月9日、鷲谷さんと町内在住で作業療法士の吉川良平さんをお招きし、お二方が運営されている埼玉県情報発信サイト「そくだ埼玉.com」にて、「福祉交流館 すてっぷ宮代」の情報発信を行いました。ゲストに新井町長をお迎えし、進修館を紹介する一コマもあります。インターネット環境があれば、YouTube(オンライン動画共有プラットフォーム)で「そくだ埼玉TV」と検索すると、当日の様子をご覧いただけます。ぜひご覧になってみてはいかがでしょうか?※右記QRコードをスマートフォンで読み取ることでご覧いただけます。



鷲谷さんと、さいたまポーズ



福祉交流館すてっぷ宮代の魅力を伝えています



鷲谷さんと町長のご対面はおよそ2年ぶりです



社協会長より、社協の役割を伝えさせて頂きました



これから町長に、進修館で魅力を語って頂きます



地域活動 いきいき! インタビュー



社協登録ボランティアグループ
茜会・齋藤恵美子さん



着物の生地を利用した色とりどりのマスク作り
唯一無二の世界に一つだけのマスク



児童用



幼児用

Q:マスクを社協に寄付しようとした「きっかけ」は何ですか？

A:もともと踊りをしていて、ボランティア活動として他市町村を含めて多くの福祉施設に慰問活動をしていたため、和服が家に山ほどありました。新型コロナウイルスが蔓延したことによって、踊りの活動も自粛を余儀なくされたことで、しばらく使っていない着物を利用してマスクを作り、寄付というかたちで宮代社協に届けようと思いました。

Q:ボランティア活動の原点をおしえてください。

A:私が高校時代に通っていた学校は、駅の掃除をさせるような福祉の教えがある学校でした。通学をする際に電車を利用する学生も多く、当然『学割』という制度を利用しています。学校では、『学割』は学生だから当たり前と思うのではなく、社会人のみなさんが負担してくださっていることから、割引がされているということ、感謝を忘れてはいけないということを教わりました。その教えが、今でも忘れることなく心に残っており、今の活動に繋がっているのだと思います。

Q:活動を長く続けられる秘訣は何ですか？

A:相手が喜んでくれるからです。その理由に尽きます。認知症のある方も喜んでくれますね。時には職員の方から認知症の影響から他者を傷つけてしまう恐れのある方もいて、助言を受けることもあります。私自身は「その時はその時」と思い、寄り添うように接しています。



インタビューを終えて

地域支え合い推進員：宮代町社会福祉協議会 松尾敏明

地域で活躍されている皆さんのお話を伺うなかで、毎回キーワードのように出てくる言葉が、『感謝』という言葉です。齋藤さん自身も早くにお父様を亡くされ、命の尊さを感じると共に、学校での福祉の教えが、現在の活動に結びついていると感じました。コロナ禍で、現在の活動が制限される中でも、何かできることはないかと考え実行されているお姿は、とても輝いて見えました。宮代社協に届けて頂いたのは、手作りマスクですが、それと同時に気持ちを届けて頂いていたことが分かりました。齋藤さん以外にも、地域で活動されている多くの方が、同じお気持ちだと思います。皆さんの善意が連鎖して、広がっていくことが、コロナ禍を乗り切る鍵となるのではないかと感じました。